

## 第12回教育研究審議会

### 議事概要

日時 令和2年10月14日(水) 午後4時00分～午後5時54分  
場所 本部棟3階 大会議室  
出席者 藤田英典学長、杉本光司副学長、田中昌弥副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、佐藤明浩学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、竹島達也研究科委員長、野中潤国文学科長、ハウエル・エヴァンス英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、中村さき子学生課長

藤田学長より挨拶

---

### 報告

- 担当者から該当教員の教育研究審議会委員からの退任について報告  
→自己点検・評価実行委員会及びFD委員会については副委員長の代行により当面对応する。  
→それぞれの委員会について各副学長がサポートするものとする。

### 2 議事

- (1) 令和2年度「教員選考委員会」の構成について(英文学科)
  - 英文学科(専任教員採用)について、委員の欠員が生じたため、該当委員を補充  
→提案通り承認。
- (2) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(国文学科)3件
  - 担当者から資料2-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。→提案通り承認。
  - ◇古典文学基礎演習A・古典文学基礎演習B(発議のみ)
    - ◆現担当者の担当コマ数減による
  - ◇国文学購読(上代)Ⅰ・国文学購読(上代)Ⅱ(発議のみ)
    - ◆受講者増による増コマのため
  - ◇日本文化概論・日本文化講読
    - ◆現担当者の学外研究による
  - 担当者から資料2-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。  
→提案通り承認(予定1年間)。

◇日本比較文学・国際比較文学  
新規採用 ランク B

(3) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（英文学科）1件

○担当者から資料3-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。

◇TEFL（英語教育法）ⅢB・TEFL（英語教育法）ⅣB・TEFL（英語教育法）ⅢC・  
TEFL（英語教育法）ⅣC・教育実践演習（中等教育研究）

◆新課程の導入による増コマ及び現担当者の退職による

○担当者から資料3-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。  
→提案通り承認（予定1年間）。

◇ELEC 同友会英語教育学・英語授業研究学ほか  
新規採用 ランク A

(4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（学校教育学科）1件

○担当者から資料4-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。

◇科学Ⅱ

◆前任者の退職による

○担当者から資料4-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。  
→提案通り承認（予定1年間）。

→研究業績書について摘要欄に概要の記載がないが問題ないのかという点と、担当科目以外の業績の記載があるが不要であるとする2点について確認したい。

→担当科目以外の記載は必要なく、審査上においても記載のない方が良いが記載されてしまっている場合は削除してもらう必要はないと考える。なお、摘要欄の概要については本来必要である。

→業績書の押印については如何か。

→本来必要である記載がないが、職歴などから採用に対して問題ないため、業績書の記載方法の再確認を委員全員がするものとする。押印については押印してもらうものとする。

→再課程認定に係る科目であるが担当者の交代により文部科学省の審査が必要になるのか。

→緊急措置対応である場合は審査の必要がないが、提案のあった担当者であれば業績も問題なく審査が通ると考える。

◇高分子学・日本化学・色材協会・日本接着学ほか  
新規採用 ランク B

(5) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（地域社会学科）1件

○担当者から資料5-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。

◇環境法Ⅰ・プロジェクト研究Ⅲ（環境法）

◆専任教員の育児休業による

○担当者から資料5-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。  
→提案通り承認（予定1年間）。

◇環境法政策学  
新規採用 ランク C

(6) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（語学教育センター）3件

○担当者から資料6-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇フランス語会話Ⅰ・フランス語会話Ⅱ・フランス語コミュニケーションⅠ・フランス語コミュニケーションⅡ

◆担当教員の定年退職による

◇アカデミックライティングⅠ・アカデミックライティングⅡ・アカデミックプレゼンテーションⅠ・アカデミックプレゼンテーションⅡ

◆科目担当者の定年退職による

◇日本語教育評価法・日本語教授法特論Ⅰ（子ども）・日本語中級VA（会話）

日本語中級VB（会話）

◆科目担当者の退職による

○担当者から資料6-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇新規採用 ランクS2

◇日本語学・日本語文法学・日本語教育学

新規採用 ランクC

◇日本語教育学・日本教育心理学・日本リディアル教育学・早稲田日本語教育学ほか

新規採用 ランクA

(7) 春学期の交換留学生受け入れについて（国際教育学科）

○担当者から資料7に基づき説明。→継続審議。

→現在国際交流センターでもガイドラインについて修正案を作成中であり、その他の懸念事項についても担当部署と協議をしており、次回の教育研究審議会へ国際交流センター案を提案する予定である。

→国では経過観察期間などについて受入大学が責任を持つこととしており管理方法など国際交流センターで検討しているようであるが、提案の国際交流会館利用は関係部署と協議してあるのか。国際交流センターからの方針の提案を待った方が良いのではないかと。

→国際交流会館については担当者レベルで事前協議済みである。

→素案の段階であるが空港近隣ホテルでの自主隔離予定であり接触アプリやラインの活用を予定している。

→医療面サポートについて検討する必要があるが早急な対応が可能であるかは不明であるため、現状の体制での対応も視野に協議などが必要である。なお、医療系アプリの活用なども行い多言語対応をしている。

→懸念事項や検討事項はあるが、基本的に提案の2名受け入れについて承認するものとしてよろしいかと。

→今後の進め方について確認となるが、多くの部署に係る事項があるため、素案を国際交流センターで作成し教育研究審議会に提案する前に新型コロナウイルス感染症等対策本部で審議を依頼してよろしいかと。

→特別な事情であることから可能とする。

→共通理解として、大学独自の決定とするものではなく国の方針に準拠することが前提である認識のうえ進める必要がある。

→国の指針に準拠する前提で前向きに検討する方針とし、技術的に解決できるかなどの検討を行い、財政的支援なども含め考えていくものとして継続審議とする。

(8) 令和2年度 非常勤講師担当科目の取消について（第17回）

○担当者から資料8に基づき説明。→提案通り承認。

- (9) 令和3年度 非常勤講師担当科目について (第1回)  
○担当者から資料9に基づき説明。→提案通り承認。
- (10) 都留文科大学介護等体験指導委員会規則(案)について  
○担当者から資料10に基づき説明。→提案通り承認。
- (11) その他 ○な し

### 3 報 告

- (1) 新型コロナウイルス感染症等対策本部会議報告  
○担当者1から資料11-1に基づき学生部門の報告。  
○担当者2から資料11-2に基づき教務部門の報告。  
○担当者3から資料11-3及び資料11-4に基づき情報部門の報告。  
→SATなども開始されているため、自宅待機などの要請をする場合など関係部署への早急な情報共有をお願いします。また、毎回課題を出さないという意見も理解できる一方で、自身への学生からの意見には毎回課題があった方がよいという声も多くあり、リフレクションシート程度の提出であれば毎回の提出を求める方針でもよいと考える。
- (2) その他 ○な し

### 4 閉 会

以 上